



人食いバクテリア 劇症型溶血性レンサ球菌感染症

令和 2 年 11 月 11 日
富山県感染症情報センター
(0766-56-5431 直通)
(0766-56-8142 細菌部)
(0766-56-8143 ウイルス部)

感染症発生動向速報

(令和 2 年第 45 週分・11 月 2 日～11 月 8 日)

《 インフォメーション 》

●劇症型溶血性レンサ球菌感染症

劇症型溶血性レンサ球菌感染症(Streptococcal toxic shock syndrome; STSS、以下「STSS」という。)は、レンサ球菌による感染症です。通常は、レンサ球菌に感染しても無症状のことも多く、ほとんどは咽頭炎や皮膚の感染症にとどまります。しかし、まれに無菌的な組織(血液、筋肉など)にレンサ球菌が侵入し、急激に症状が進行して重篤な疾患となることがあり、メディアなどで「人食いバクテリア」といった取り上げ方をされることがあります。本疾患は感染症法上において五類全数把握疾患に位置付けられています。

全国の患者報告数は平成 23 年より増加傾向にあり、令和 1 年は 894 人、令和 2 年はこれまでに 645 人が報告されています(図 1)。図 2 は富山県における原因菌の血清群別の STSS 患者報告数を示しています。県内でも全国と同様に年々増加傾向で、最近では年 10 人前後が報告され、今年には既に 9 人が報告されています。患者は 30 歳以上の大人に多く、60 歳以上が約 70%を占めています。患者からは A 群溶血性レンサ球菌が最も多く分離されますが、近年では G 群の割合が増えています。

初期症状としては、発熱や悪寒などの風邪様の症状、四肢の疼痛や腫脹、創部の発赤などが見られます。発病から病状の進行が非常に急激かつ劇的で、筋肉周辺組織の壊死を起こし、血圧低下や多臓器不全からショック状態に陥り、発病後数十時間で死に至ることも少なくありません。約 30%が死亡しており、きわめて致死率の高い感染症です。

早期診断・早期治療が治癒率を高めます。創傷部位を清潔に保ち、創部の発赤や腫張、痛み、発熱など、感染の兆候が見られた場合には、直ちに医療機関を受診してください。

《 全数報告の感染症 》

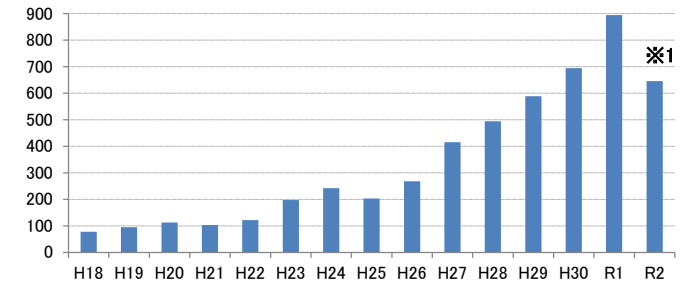
- 指定感染症 新型コロナウイルス感染症 1 件
- 四類感染症 レジオネラ症 2 件 (①60 歳代、男性、肺炎型 ②70 歳代、男性、肺炎型)
- 五類感染症 急性脳炎 1 件 (10 歳未満、女性)
- 侵襲性肺炎球菌感染症 1 件 (60 歳代、女性)
- 梅毒 1 件 (30 歳代、男性、早期頭症梅毒 I 期)

《 定点報告の感染症 》

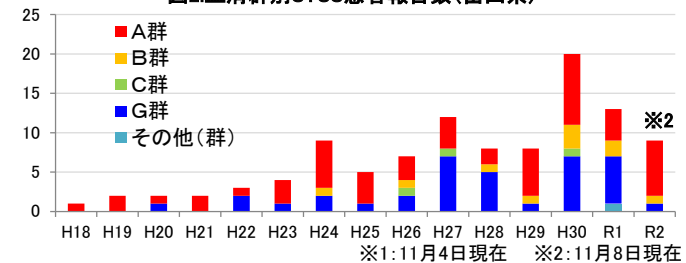
今週の県内上位 6 疾患		定点あたりの数	
順位	疾病名	今週 (増減)	先週
1 位	感染性胃腸炎	1.79 (↓)	2.00
2 位	A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.97 (↓)	1.10
3 位	マイコプラズマ肺炎	0.40 (↑)	0.00
4 位	突発性発しん	0.34 (↓)	0.45
5 位	咽頭結膜熱	0.24 (↑)	0.21
	水痘	0.24 (↑)	0.10

この内容は以下のホームページでさらに詳しくご覧いただけます
アドレス <http://www.pref.toyama.jp/branches/1279/kansen/>

報告数(人) 図1.STSS患者報告数(全国)



報告数(人) 図2.血清群別STSS患者報告数(富山県)



○感染症発生動向調査報告状況（令和2年第45週 令和2年11月2日～令和2年11月8日）

分類	疾患	今週報告分（第45週）					累積報告数						
		新川	中部	高岡	砺波	富山市	計	新川	中部	高岡	砺波	富山市	計
指定感染症	新型コロナウイルス感染症					1	1	46	13	38	10	317	424
二類感染症	結核							16	5	31	8	33	93
三類感染症	腸管出血性大腸菌感染症							1	1	9		17	28
四類感染症	E型肝炎							3					3
	A型肝炎							9				1	10
	デング熱											1	1
	レジオネラ症			1		1	2	1		15	1	15	32
五類感染症	アメーバ赤痢									1	1	2	4
	ウイルス性肝炎											1	1
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症							2		7	1	3	13
	急性脳炎					1	1	2		1		2	5
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症									2		7	9
	後天性免疫不全症候群											1	1
	侵襲性肺炎球菌感染症			1			1	2		3		5	10
	水痘（入院例）							1	2	2		2	7
	梅毒					1	1	2		4		16	22
	破傷風									1		2	3
	百日咳										24	2	26
定点疾病 (下段は定点当たりの患者数を示す)	インフルエンザ							625	290	892	567	1,190	3,564
	RSウイルス感染症					1	1	2	5	26	4	38	75
	咽頭結膜熱	1		5		1	7	105	58	130	9	91	393
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.25		0.63		0.10	0.24						
	感染性胃腸炎	16	5	9	4	18	52	1,021	580	714	277	1,947	4,539
	水痘	4.00	1.67	1.13	1.00	1.80	1.79						
	手足口病			6		1	7	30	33	78	18	98	257
	伝染性紅斑			0.75		0.10	0.24						
	突発性発しん			1		1	2	18	3	34	9	56	120
	ヘルパンギーナ			0.13		0.10	0.07						
	流行性耳下腺炎			1		1	2	9	7	6	16	38	
	流行性角結膜炎			0.50			0.14	1	6	12	2		21
	細菌性髄膜炎									1		2	3
	無菌性髄膜炎							1			1	6	8
	マイコプラズマ肺炎			1		1	2	2	12	27	16	10	67
	クラミジア肺炎			1.00		1.00	0.40					1	1
	感染性胃腸炎（ロタウイルス）									2	2		4
インフルエンザによる入院患者（*）											1	1	

本週報のデータは速報値であり、今後、調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。

* インフルエンザによる入院患者累計報告数は、令和2年第36週(8月31日)～の集計です。